

環境と公害

自然と人間の共生を求めて



編集 宮本善一 編集代表 宮路聡久・寺西優一 原稿募集



【特集1】公害資料館の現代の意義と課題

公害資料館の意義 —— 清水万由子
公害資料館ネットワークにおける活動の力 —— 林美咲
公害資料の収集と整理における課題 —— 湯が野仁

【特集2】東日本大震災と環境学（シリーズ4回）

原子力発電の事故
福島第一原発事故の被害の現状 —— 湯が野仁・湯が野一
AEP 汚染汚染水問題が問いつけるもの —— 湯が野仁
ひき返る汚染水 - 汚染水サイクル —— 湯が野仁・湯が野一

【編集後記】第1回「環境と人間」全国研究・交流会議のふりかえり
オンラインプレジデンツプログラム —— 湯が野仁

VOL.50 NO.3 WINTER 2021

筑波書店

創刊
50年

Research on Environmental Disruption

公害資料館が はたす役割と 未来

2022年1月8日（土）13:00-16:00

主催：科学研究費補助金基盤研究（C）「公害経験
の継承に向けた公害資料館の社会的機能の研究」
（代表：清水万由子）

共催：公害資料館ネットワーク

お願い

- 原則として、カメラとマイクはOFFでお願いいたします。質問・コメントは随時チャットにてご投稿ください。
- 記録のために録画します。録画公開予定はありません。ご了承ください。
- 可能な限り、Zoomの名前表記を「お名前（所属）」へ変更をお願いいたします。
(参加者アイコンをクリック→自分の名前にカーソルを合わせる→詳細→名前の変更)
- 当日資料は事前にお送りしたメール記載のGoogleドライブよりダウンロードしてください。

開催趣旨

- 科学研究費補助金「**公害経験の継承に向けた公害資料館の社会的機能の研究**」プロジェクトでは、2019年より公害経験の継承と公害資料館のあり方について議論を重ねてきました。
- 各地で公害資料館が開設され、公害の経験を次世代に継承する取り組みが展開されています。全国の公害資料館がゆるやかに連携する**公害資料館ネットワークの設立から8年目**を迎える今、あらためて現代における**公害資料館がはたす役割**を確認し、**多様な主体との連携・協働の可能性**を考える機会を持ちたいと考え、本シンポジウムを企画しました。
- 研究の中間報告として、『**環境と公害**』誌（第50巻第3号，2021年1月発行）の**特集「公害資料館の現代的意義と課題**」にてメンバーが論考を発表しました。
- 本シンポジウムでは、特集論考の執筆者と公害資料館ネットワーク関係者との対話を通じて議論を深め、今後の公害資料館のあり方についても考えてみたいと思います。

公害資料館ネットワーク

- (広義の) 公害資料館
 - 公害の経験を伝えようとする組織
 - **展示機能・アーカイブズ機能・研修受け入れ**（ワールドミュージアム）の3分野のいずれかを担う
 - 建物の有無は問わない
 - **国・地方自治体・学校・NPO**など多様な運営主体
- 2013年に公害資料館ネットワーク結成
 - 公害が激甚だった地域で、**公害資料館連携フォーラム**を開催してきた
 - 2021年は長崎で「環境と平和の重なりを考えよう」をテーマに開催した

第8回 公害資料館連携フォーラム in 長崎

2021 12/11(土)-12(日)

場所 長崎大学 文教キャンパス 長崎県長崎市文教町1-14

環境と平和の重なりを考えよう

被爆地としての長崎の被爆体験の継承や平和教育の蓄積、および公害の体験を共有し、公害・環境・平和の重なりをお互いに学び、これからの公害教育と資料館の可能性についてとにも議論を深めませんか。

【参加費】 ●一般:5,000円 ●会員:4,000円 ●学生:1,000円
※現地・オンライン参加にかかわらず、事前に資料集を送付します。

【スケジュール】

12/10日 (金)	15:50~17:30 長崎原爆資料館 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 オンラインツアー
12/11日 (土)	9:00~12:00 現地見学 定員30人 13:30~18:00 基調講演 (13:30~15:30) 分科会 (16:00~18:00)
12/12日 (日)	9:30~15:00 分科会 (9:30~11:30) 全体会 (13:00~15:00)

基調講演 記憶を伝える場としてのミュージアム —国際的な潮流を踏まえて—
栗原祐司さん

profile
京都国立博物館副館長。1989年上智大学法学部卒業、同年文部省(現文部科学省)入省、ニューヨーク日本人学校国際交流ディレクター、文部科学省社会教育課企画官、文化庁美術芸課課長、東京国立博物館総務部長、国立文化財機構事務局局長等勤務を経て、2016年10月より現職。日本博物館協会理事、ICOM(国際博物館会議)日本委員会副委員長、ICOM-DRMC理事、日本展示学会副会長、全日本博物館学会役員、日本ミュージアム・マネジメント学会理事、国学院大学大学院・国際基督教大学非常勤講師、観光庁MICEアンバサダー等。専門分野は博物館行政、ミュージアム・マネジメント。

主催：公害資料館ネットワーク、第8回公害資料館連携フォーラムin長崎実行委員会
共催：長崎大学博物館学部長、長崎大学校長秘書長研究センター（RECNA）、一般社団法人日本博物館教育学会、公益社団法人日本博物館教育フォーラム
後援：関係者、長崎県、長崎市、五島市、ESD活動支援センター、九州地方ESD活動支援センター、全日本博物館学会、日本展示学会、日本アーカイブズ学会、長崎新聞社、西日本新聞社、NHK長崎放送局、ABC長崎放送局、KTNNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、長崎国際テレビ、長崎ケーブルメディア、九州朝日放送
協力：長崎原爆資料館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、地球環境パートナーシッププラザ(GEOP)、九州地方環境パートナーシップオフィス(EPO九州)、長崎の近現代資料の保存・公開をもとめる会

本日のプログラム

13:00-13:10 開催趣旨の説明 清水万由子（龍谷大学）

13:10-13:35 対話① 清水万由子「公害経験継承の課題」

×川中大輔さん（龍谷大学／シチズンシップ共育企画）

13:35-14:00 対話② 林美帆（みずしま財団）「公害資料館ネットワークにおける協働の力」

×小林正明さん（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）

14:00-14:25 対話③ 清水善仁（中央大学）「公害資料の収集と解釈における論点」

×山本唯人さん（法政大学）

14:25-14:35 休憩

14:35-15:00 対話④ 安藤聡彦（埼玉大学）「教育資源としての公害資料館」

×金子淳さん（桜美林大学）

15:00-15:25 対話⑤ 除本理史（大阪市立大学）「「困難な過去」から「地域の価値」へ」

×西島香織さん（原子力災害考証館furusato事務局）

15:25-15:50 参加者の質問に対する応答（チャットにて質問受付）

15:50-16:00 総合コメント 西村仁志さん（広島修道大学）

16:00 閉会